

フルート&クラシック・ギター

泉 真由×松田 弦

いずみ まゆ×まつだ げん



【所属マネジメント】

株式会社ミリオンコンサート協会

住所：〒1050001 港区虎ノ門1-21-10

グランスイート虎ノ門702

TEL：03-3501-5638 FAX：03-3501-5620

担当：和田 健美 E-mail：wada@millionconcert.co.jp

岩永 直也 E-mail：iwanaga@millionconcert.co.jp

泉 真由 いずみ まゆ

松田 弦 まつだ げん

高知県出身 神奈川県在住（フルート）

高知県出身 東京都在住（ギター）

■ やってみたいアクティビティとコンサート

★色んな音色を楽しもう！・・・クラシックギターは弾く角度や場所などでどのように音色が変わるかな？特殊奏法を使って“打楽器”までできちゃいます！一方フルートは、フルートの仲間のピッコロやアルトフルートも使って、45分のアクティビティの中でも様々な音色を味わってもらいます。

★参加型リズム遊び・・・フルートとクラシックギターの大切なレパートリー、ピアソラ作曲の『タンゴの歴史』という曲に合わせて、タンゴのリズムをみんなで体験してみよう！手拍子やその場で体を動かすなど、コロナ禍でも声を出さずに出来るアクティビティです。

★想像の世界へ・・・武満徹作曲『アルトフルートとクラシックギターのための海へ』という作品をメインに演奏します。不思議な旋律や不協和音、間がたくさんあったり休符が秒数で書かれていたり、特殊奏法も出てくるようなちょっとわかりにくい所謂“現代曲”ですが、タイトルの『海へ』からどんな海を想像するかを描きながら聴いてもらいます。・・・そうすると、あら不思議。とっても面白い結果が待っています！

★日本全国、どこへでも、どこでも！・・・持ち運びが簡単なフルートとクラシックギター。客席でも野外でも、どこでも手軽に演奏できるデュオです。これまでに、野外ステージでの星空コンサート、地元の絵本や写真とのコラボレーション、博物館、子育て広場や福祉施設など、ホールや音楽室を飛び出して、演奏の場を広げています。

■ 自己PR

高知県の過疎地域出身の私たちデュオは、全国的にみてもプロの演奏家が立ち寄りにくい立地に加え、当時はYouTubeやインターネットなどですぐに音楽が手に入らなかったこともあり、18歳で高知県を出るまでとにかく上質な音楽に飢えていました。東京へ音楽を学びに出てきた時のカルチャーショックと言ったら、大げさでなく衝撃的で、少しでもそのような思いをしている地方在住の方や、普段音楽に触れる機会の少ない方にも、上質の演奏を届けたい一心で活動しています。敷居が高いように思われるクラシックですが、私たちデュオは、名曲の「アルルの女」よりメヌエット（フルート）、「禁じられた遊び」（ギター）をはじめとした0歳からご年配の方々まで楽しめる様々な種類のプログラムはもちろん、観客と舞台の隔てのない距離感、巻き込み型のトーク、地元とのコラボレーションなど、担当者様と綿密な相談の上で、他にはないアイデアで舞台作りをしています。ぜひ私たちと一緒に、コンサートを作りましょう！

PROFILE

【泉 真由（フルート）×松田 弦（クラシックギター）】

美しく透明感のある音色から、明るく陽気なタンゴ、激しく情熱的なスパニッシュ、武満徹などの現代曲、親しみやすい映画音楽まで、多彩なレパートリーでフルートとクラシックギターの可能性を開拓している。2010年、デュオを結成。2人の出身である高知県を始め、全国的にリサイタルやアウトリーチ、施設や病院の訪問演奏活動を行う。（一財）地域創造公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト。2018年、fontecよりCD『Toward the sea ~海へ』、2020年、『Liberté』を発売。いずれもレコード芸術誌特選盤に選出された。

泉 真由 Mayu Izumi

桐朋学園大学を首席で卒業。同大学研究科、桐朋オーケストラアカデミー修了。日本フルートコンヴェンションコンクール第1位、

吉田雅夫賞受賞。日本木管コンクール第2位。CD『道の記憶』をリリース。ソロ、室内楽奏者としての活動のほか、全国のオーケストラ、吹奏楽団に客演を重ねる。琉球フィル客演首席奏者。桐朋学園大学、洗足学園音楽大学、東邦音楽大学非常勤講師。

松田 弦 Gen Matsuda

ストラスブル音楽院に学んだ後、オーストリア、イタリア、スペインで研鑽を積む。アリカンテ大学主催のマスター修士課程修了。東京国際ギターコンクール第1位、アントニー国際ギターコンクール第1位をはじめ、国内外の8つのコンクールで第1位受賞。CD『弦想～Gen-Soul～』『esperanza』『everGrEeN』はいずれもレコード芸術誌特選盤に選出。クラシック音楽以外との共演も多く、活動の幅を広げている。